

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	よしだつねや	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	吉田恒也	学生 (D 1)	川上則雄
Tel,Fax e-mail	yoshida@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Study of charge-density-wave instability on heavy fermion system		
著者名	吉田恒也、川上則雄		
会議名称 ・開催期間	SCES2011 自 2011 年 8 月 29 日 ~ 至 2011 年 9 月 3 日		
開催地 (国、市)	ケンブリッジ大学 (英国)		
出張期間	自 2011 年 8 月 28 日 ~ 至 2011 年 9 月 4 日		
国別参加者数	700 人程度 (推定)日本 215 人、インド、120 人、ドイツ、100 人、その他、265 人)		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>国際会議 International Conference on Strongly Correlated Electron Systems 2011 (SCES 2011) にて、近年注目を浴びている重い電子系における遍歴-局在電子間の相関効果について理論的に解析した結果をポスター発表した。</p> <p>SCES は強相関関係を専門とする研究者が多く出席し、人数も 500 人以上参加する大きな会議である。</p> <p>自分のポスター発表に関しては、割り当てられた時間の間、ほぼ途切れることなく、国内、国外の多くの方々に聞きに来て頂け、大変ありがたかった。質問も多く頂いて盛り上がり、実りのある議論ができた。</p> <p>特に、重い電子系を研究されている東北大学の星野氏とは、理論の詳細を含む広範囲な議論を行い、並進対称性のない Bethe 格子系における電気伝導度の計算方法等、論文だけでは得られない情報をお互いに得ることができた。</p> <p>また、CeRhIn₅ の臨界性の実験をされている H.Q. Yuan 氏とは実験との対応に関して議論させていただいた。</p> <p>これらは現在執筆中の論文を書き上げる上でも参考になると考えられる。</p> <p>今回の国際会議における発表はおおむね好評果を得ることができ、モチベーションが向上したと同時に、議論中に次の研究のアイデアも生まれたので、非常に有意義なものになったと思われる。また、他の口頭発表やポスター発表も興味深いものが多く、勉強になった。この経験を生かしてさらに研究を進めていきたい。</p>			